

くもんの **中学**

基礎がため100^{パーセント}%

中2国語 読解編

解答と解説

- ・難しい問題には解説がついています。よく読みましょう。
- ・(例)は、自分で言葉を考えて書く問題の解答例です。同じような意味であれば、解答と全く同じ答えでなくても正解です。
- ・別解は、()の中に示してあります。()の中の答えでも正解です。

くもん出版

一章 説明文 1 指示語

基本問題①

p.4

1 確認

★ 薬局

(1) ものさし

(2) くつ

(3) 赤レンガの建物

(4) 棚の上の薬

2

(1) 駅

(2) 深海

(3) 川沿い 小さな公園

(4) 花で飾られた門

(5) 新しい図書館

(1) 待ち合わせ場所 公園

(2) 父の故郷

(3) 北海道

(4) 君の家

(5) 赤い帽子

(6) アメリカ

一章 説明文 1 指示語

基本問題②

p.6

1

(1) 子供の頃に家族で箱根に行ったとき

(2) 学校 運動会

(3) みんな 動物園

(2) 直径一メートルはあろうかという大きな

2

(1) 二人とも相手の言葉が信用できない

(2) 子供が欲しがる物

(3) 大声でわめきちらすとやがて泣き始める

(1) カツオやマグロ

(2) 人間が存在するから世の中の物が存在するのだ

(3) 日本の公用語をフランス語やドイツ語にしよう

という意見

一章 説明文 1 指示語

基本問題③

p.8

1

(1) 大きな木

(2) 評判の美人や歌舞伎役者たちのプロマイド

(3) 十五分ごとに鳴る時計

(4) 自分の役割

(1) 雑木林、畑、田んぼ、川、ため池

(2) 人の手が加えられてきた(前に「長い年月をか

けて、」を入れても正解。)

(2) 攻撃的な知性

(3) 海へは入らない

(例) 十字架の片一方をかつぐ

解説 「十字架の片一方をかつがせた」は正解ではな

3

一章 説明文 1 指示語

標準問題

p.10

1

(1) ラッシュユールに任せる

(2) パーク・アンド・ライド

(3) 歴史と文化、新しい問題

(4) イ

2

(1) 公共用時計が十五分ごとに鳴っていた

解説 「そう」の部分に答えをあてはめて、文脈が通

るか確認してみるとよい。

(2) 一時間ごと

解説 聞いた後で「駆けだしたのでは間に合わない」

のは、どんな鐘の音か。直前の部分に着目して答

える。

(3) ぜんまい駆動の室内用置き時計

(4) 最先端 豪華

解説 直前の二文に着目する。主にドイツの最先端の

技術で作られ、宝石などで豪華に飾られ、王宮や

貴族の館に置かれた室内用置き時計のことが、公

共用時計と対比して述べられている。

p.13

1

(1) イ

(2) ウ

(3) ア

(4) ア

(5) イ

(6) ウ

(7) ア

(8) ウ

(2) 中止になった

一章 説明文 2 接続語

基本問題②

p.14

1

(1) 復活させた 高性能 線路を敷設

(2) 役に立たない 貴重な

(1) 静止 動いている

(2) イ

(1) 野生動物 子グマ

(2) ウ

解説 「ただし」は、前に述べた事柄の補足説明

を示している。

p.15

2

(1) 野生動物 子グマ

(2) ウ

p.16

1

(1) イ

(2) イ

一章 説明文 2 接続語

基本問題③

一章 説明文 2 接続語

基本問題①

p.12

1 確認

★ (1) 天気気がかりだ

- ① ウ
② ウ
③ イ
④ イ
⑤ ウ
⑥ ア

1章 説明文 2 接続語

標準問題

- 1 (1) A イ B E
(2) ウ

解説 線部は、「絵は写生が基本である。想像で描く作品のほうが少ない。」ということを示して、これの「逆」だと述べている。

- 2 (1) A イ B ウ
(2) 愚かな行為 頑固なおやじ
(3) 年がいくと

解説 「一」の一文の中の「この構図」は、「岩の上のリーダーと海の中の若いサルたちの構図」を指す。

1章 説明文 3 内容の理解

基本問題①

- 8 確認 ★ ① 作品中心の労働

解説 小学校の低学年や幼児の絵が、高学年になるとどう変わるのかを考える。「弥生の絵は、小さい子供の絵とよく似て」とあり、また、「弥生の絵は……多視点画と呼ぶことができ」とあることから、小学校の低学年や幼児の絵が、弥生の絵と同じく多視点画であることをとらえて答える。

1章 説明文 3 内容の理解

標準問題

- 1 (1) 自分の「心」
(2) A ア B イ C イ

解説 気に入った服を着るためには、おなかは「全然すかない」という、心と体が分離した心理状態を読み取る。

- 2 (1) それは、「わた
(2) A イ B ア C ア D イ E ア
F イ

解説 りんごの「芯」が、「実」に包まれているように、人の「心(しん)」も「身」に包まれていると筆者は述べている。

- (3) (日本)一つのもの外と内とみなす
(西欧)二つに分けて対立するものとみなす

- ① クマ
② 人間
・光のじゅうたん ・光の海
(1) 皇帝や国王に謁見した臣下が退出するときの
解説 最初の一文に着目する。
(2) 対面した両者の間に危機的な緊張が存在する

1章 説明文 3 内容の理解

基本問題②

- 2 1 (1) 人の「知性」の「知性」
(1) イースター島
(「絶海の孤島」でも正解。)

- 3 (2) 有限の資源
A ウ B ア C イ D ア

解説 Aは、最初の一文に「モアイの巨像を作り続けた文明は、……突然崩壊する。」とあることから答える。Bは、直前の「バナナや……などの」からわかる。Cは、第二段落の最初の一文に「根本的原因是、森の消滅にあった」とあることや、Cの消滅は、すぐあとに書かれた表層土壌の流失の原因になったことに着目して答える。Dは、文頭の「こうして」が指し示す内容を考えて選ぶ。

- 4 (1) 幾つもの視点
(2) A 一視点画 B 多視点画

1章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題①

- 8 確認 ★ (1) 工夫 きれいな川 十年 ホタル
(2) ア

- ◆ (1) 1 ウ 2 イ 3 ア
2 1 イ 2 ウ 3 ア

1章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題②

- 1 (1) (1) 段落 屋根飾りのついた楼閣の絵 珍しい 社会の仕組み
(2) 2 段落 階級 支配者

- 2 (1) (1) 段落 立ち止まったままで話しかける
(2) 2 段落 クマの行動を刺激しない 話しかけられることへのとまどい

1章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題③

- (1) イ
解説 (1) 段落ではカタカナ語が分かりにくいという高齢者の嘆き、(2) 段落では英語圏出身の外国人の指摘が紹介されている。
(2) 要は、物事

2

解説 「要は、……と思います。」という表現に筆者の考えがまとめられている。

- (1) ウ (2) ア (3) イ (4) ア

解説 ふろしきと日本のふとんや部屋の使い方に共通する思想(考え方)は、時と場合によって形態や機能を変える「自由さ」をもっていることである。

- (2) ウ

解説 [1]段落では「住」の面から比較分析し、[2]段落では、「衣」の面からの分析を加えている。外国のもの 身近にあるよいもの

解説 筆者の最も言いたいことは、この段落に書かれている。

- (4) イ

解説 [1]・[2]段落では「ふろしきの思想」のよさにについて述べ、[3]段落では筆者の意見を述べている。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成

標準問題

1

- (1) 路面電車 人 環境 (2) ・デザイン上の工夫 ・クリーン ・経済性 (3) ア

解説 段落の初めの言葉に着目する。[2]段落「まず、[3]段落「次に」、[4]段落「さらに」に着目すると、[2]・[4]段落は、新しい路面電車は長所をもっている。

2

という[1]段落で述べたことの具体的な説明を三つ述べていることがわかる。また、[5]段落の初めの「このように」は、前の段落を受けてまとめて述べることを表す言葉。

- (1) ぼくは日ご

解説 「ぼくは日ごから……と考えている。」の一文に、筆者の考えが述べられている。筆者の考えや主張、文章の要点が述べられた文が中心文である。

- (2) 「障害者」

(3) 物理的な壁 心の壁 (4) ウ

解説 [1]・[2]段落では、環境の不備による物理的な壁がなくれば、体の不自由な障害者の障害がなくなるということが述べられている。[3]段落では、その話題を進めて、物理的な壁を取り除くには、人々の障害者・高齢者に対する心の壁を取り除くことが大切だと述べられている。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨

基本問題①

確認

- ★ (1) 心のバリアフリー

(2) また一人、 (3) 心の壁 慣れ

- 1 機能性が前 2 馬に引かせ

1

解説 かぎかっこ(「」や中点(・)も一字に含めて答えることに注意する。

- 2 「タイム」

解説 敬語が少ないと思われるがちな英語にも、別の形で敬意を表す表現がある。一方、現代の日本人は敬語を失ったにも関わらず代わりの表敬表現を添えるのを忘れていないのかと、筆者は述べている。

- 2 ウ

解説 最後の一文に、筆者の伝えたい内容が書かれている。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨

基本問題②

1

- 1 自然 理解 適応 ガイアの知性 (2) かけがえのない 誇り (3) イ

解説 敬語が少なくないと思われるがちな英語にも、別の形で敬意を表す表現がある。一方、現代の日本人は敬語を失ったにも関わらず代わりの表敬表現を添えるのを忘れていないのかと、筆者は述べている。

解説 最後の一文に、筆者の伝えたい内容が書かれている。

- 2 ウ

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨

標準問題

1

解説 筆者は、最も優れた年寄りのサル「カミナリ」を例にとって、その「カミナリ」ですら新しい行動は開発できないことを述べている。

- (1) 名君 年寄った 行動 (2) 非常に保守的 (3) ウ

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨

基本問題①

2

解説 「とまどい」「恥じらい」は順不同) 視線を合やす文化 視線を避ける文化 とまどい 恥じらい(「とまどい」と「恥じらい」は順不同)

- (1) ア

解説 筆者は、イタリア文化といういわば「他者」に接することで、「自分の日本文化の問題に気づいたのである。その問題とは、「他者のまなざしに敏感な我が国の文化(視線を避ける文化)の問題」である。

- (2) ア

解説 原語を日本語ふうの発音に直すだけで、そのまま用いることを「単純借用」という。

- (3) ア

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (4) 単純借用

解説 原語を日本語ふうの発音に直すだけで、そのまま用いることを「単純借用」という。

- (5) 和製英語

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (6) イ

1

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (1) A E B Y

(2) ア (3) 原語の意味→翻訳借用 (4) アルファベール用いる方法

解説 原語を日本語ふうの発音に直すだけで、そのまま用いることを「単純借用」という。

- (5) 和製英語

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (6) イ

1

解説 「とまどい」「恥じらい」は順不同) 視線を合やす文化 視線を避ける文化 とまどい 恥じらい(「とまどい」と「恥じらい」は順不同)

- 1 機能性が前 2 馬に引かせ

解説 筆者は、イタリア文化といういわば「他者」に接することで、「自分の日本文化の問題に気づいたのである。その問題とは、「他者のまなざしに敏感な我が国の文化(視線を避ける文化)の問題」である。

- (1) A E B Y

解説 原語を日本語ふうの発音に直すだけで、そのまま用いることを「単純借用」という。

- (2) ア

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (3) 和製英語

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (4) イ

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (5) 和製英語

解説 最初の段落で、「外国から新しい物や概念がもたらされるとき、それを受け入れる方法」にはどんな

- (6) イ

ものがあるのかという話題を示し、第二段落以降で具体的に説明している。

- (7) ウ
- 【解説】 単純借用、翻訳借用、転用、アルファベットをそのまま用いる方法、和製英語、以上五つの方法があげられている。

一章 説明文

完成問題②

p.42 ◆ (1) エ

【解説】 □のあとで前と同じ内容が言い換えられているので、言い換えの「すなわち」が入る。

- (2) ア
- (3) イ

【解説】 次の段落で、その「雰囲気」が説明されている。人間が、どう

- (5) 示唆

【解説】 「示唆」とは、それとなくものを示すこと。筆者は、鯨や象が「なにか大切なもの」を人類に

教えてくれるために存在し続けているのではと考えるようになったというのである。

- (6) 年長者から生きるためのさまざまな知恵を学ぶ

【解説】 理由を問われているときは、本文中の「〜から」で、「〜ので」「〜ため」などの表現に着目する。ここでは、⑥段落の最後で「ゆつくりと成長するのだ

ろう」とあり、その直前に理由が書かれている。

- (7) 6
- 【解説】 各段落の要点をつかんで大段落に分ける。⑤段落では、前段落の「畏敬の念」が説明されている。
- 書いてみよう
- (例) 人間と象や鯨が、同じような大脳新皮質の大きさをもち、同じような成長過程をたどることを知って驚いた。象や鯨も、私たちのように、いろいろな出会いを経て経験を積み成長していると思うととても興味深い。

一章 小説 1 場面をとらえる

基本問題①

p.44

確認 ★ 時 今日

場所 部屋

登場人物 老人

できごと 老人 思い出 引き出し

- ① 夏 敏也
- ② イ

【解説】 「太陽が……学校の裏山に落ちかかるころ」に着目して、夕方であることを読み取る。

p.45

- ② 防空壕
- ③ ア

夜明け

※一日の中のいつかは、「少し白み始めた空」という表現から推測される。

・金木犀の巨木

一章 小説 1 場面をとらえる

基本問題②

p.46

- ① 竹とんぼ
- ② 曲芸

ア

【解説】 少年が、無線機を使って、ハッチェアウトについて紺野先生にたずねていることから読み取る。

- ③ ① 幸治 髪とつめ
- ② メロス 荒れ狂う波

【解説】 「荒れ狂う波」を、「百匹の大蛇」と答えないと。「百匹の大蛇は」、「荒れ狂う波」のたとえである。メロスが実際に闘った相手ではない。

- ④ サチ イタドリ 初めて

一章 小説 1 場面をとらえる

基本問題③

p.48

- ① (1) (A)の場面)部屋の中
- (2) (B)の場面)草の中

- (3) ウ
- (例) 白熊のような二匹の犬

【解説】 「にゃあお」といった鳴き声や、犬から逃げることから読み取る。

p.49

②

【解説】 線部は、芋畑に青々とした葉が一面に波打っている様子を表すので、季節は夏である。

ろう」とあり、その直前に理由が書かれている。

- (7) 6
- 【解説】 各段落の要点をつかんで大段落に分ける。⑤段落では、前段落の「畏敬の念」が説明されている。
- 書いてみよう
- (例) 人間と象や鯨が、同じような大脳新皮質の大きさをもち、同じような成長過程をたどることを知って驚いた。象や鯨も、私たちのように、いろいろな出会いを経て経験を積み成長していると思うととても興味深い。

一章 小説 1 場面をとらえる

基本問題①

p.44

確認 ★ 時 今日

場所 部屋

登場人物 老人

できごと 老人 思い出 引き出し

- ① 夏 敏也
- ② イ

【解説】 「太陽が……学校の裏山に落ちかかるころ」に着目して、夕方であることを読み取る。

p.45

- ② 防空壕
- ③ ア

夜明け

※一日の中のいつかは、「少し白み始めた空」という表現から推測される。

・金木犀の巨木

一章 小説 1 場面をとらえる

標準問題

p.50

- ① (1) 春夏
- ウ

【解説】 フックが死ぬ間際の鳴き声である。

- (3) 居間
- (4) エ

【解説】 「身じろぎ一つしていない」という表現などから、「死」を読み取る。

p.51

②

- (1) ① 七月三十一日の夜
- ② 芋畑 露天の塚 待避
- (2) 手をついて農夫に詫びた
- (3) 背中 母
- (4) ア

【解説】 清太、農夫、お巡り、節子の四人。

一章 小説 2 心情を読み取る

基本問題①

p.52

- 確認 ★ (1) さびしい
- (2) イ

1 2

- (1) おもしろくない
 - (2) 怖かった
 - (3) 恐怖
 - (1) 命令口調 鳥
 - (2) ア
- 解説 「しぶしぶ」は、いやいや行う様子を表す。
- 解説 あとで「文句を言っていた」とあるので、不本意な仕事と想っていることがわかる。

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題②

1

- (1) イ
 - (2) ア
- 解説 ——線部は、「もう逃げられない」と悟ったときの苦しそうな笑いである。

3 2

- (1) ウ
 - (2) ア
 - (3) イ
- 解説 自分たちが食べられるという状況にあることに気づいたときの心境を考える。
- 解説 「ため息をつく」は、失望や心配のときもあるが、ここでは感動を表す。「口に含むと甘い香りが体じゅうにしみわたり」から、お菓子に対する感

4

動であることを読み取る。
渡し舟 学校 チャボの卵 孵る

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題③

1

- (1) イ
- (2) ウ
- (1) あまりのこと
- (2) 明るくなった
- (1) 夢から覚めた
- (2) 希望

解説 夕日によって葉や枝が燃えるばかりに輝いている様子が、メロスの希望にあふれる気持ちを象徴している。

4

解説 人前でラブレターをもらったときの心情を考える。直前で「かあつと赤く」なっていることから、恥ずかしさを覚えていることがわかる。

解説 今まで住んでいた家の情景が、この街での「ぼく」や家族の思い出を表している。

二章小説

2 心情を読み取る

標準問題

1

- (1) イ

確認

★

「彼」 弱虫

ヒロ子さん 五 大柄 勉強

二人の共通点 東京

二人の関係 かばって

1

- (1) 同級生 細長い 小さく丸い
- (2) 小学六 ゴルフ

2

- (1) ・真っ黒い 白と赤
- (2) ・真っ白い 木の皮

解説 「根が生えたようにぴくりとも動かず」とある。

4 3

- イ
- 三十 十 故郷

2

- (1) ウ
 - (2) 悔しい
 - (3) ア
- 解説 兄やんがサチに「見なかったことにしろ」と言っていることに着目する。そのためには、見ていたことをテツオに知られては困るのである。
- (4) のけ者 山
- 解説 兄やんの「こんなことが……テツオはのけ者にされる。もう、山にも来れなくなる。」という言葉から、気持ちを読み取る。

二章小説

3 人物像をとらえる

基本問題②

1

理穂 豊 久 末っ子(「豊」と「久」は順不同)

2

解説 「私」は、末っ子の詩穂である。

3

人見知り 女子校 あこがれていた

4

(1) いつも大事に

4

(2) サチの後ろ

4

(1) おれは、もう生涯、犬を飼うのはやめるぞ。

2

(例) かけがえのない

(「非常に大切な」「生涯忘れられない」なども正解)

二章小説

3 人物像をとらえる

基本問題①

二章小説 3 人物像をとらえる 基本問題③

- 1 鼻っ柱の強い人
 解説 「鼻っ柱が(の)強い」は、負けん気が強いという意味を表す。
- 2 気の弱いやつ
 (1) 単純
 (2) ウ

3 二人の紳士は、動物を撃ち殺すことを喜び、楽しみとしている。生き物の命を何とも思っていないのである。また、飼い犬が死んだことを金額で表していることから「計算高い」ともいえる。

4 横暴 言い訳 うそ
 解説 兄の行動や、兄と妹の会話文に着目する。

二章小説 3 人物像をとらえる 標準問題

- 1 新兵衛の主君松山新介の側腹の子
 解説 「側腹の子」とは、正妻でない女性が産んだ子供のこと。
- (1) 無邪気な功名心
 (2) そして、幼
 (3) 「功名心」は、手柄を立てたいという気持ちのこと。

4 ア
 解説 中村新兵衛は、服折とかぶとを貸してほしいという若い士の申し出を快く受け入れるが、その時に、服折やかぶとはたんに形であって、「肝魂(何物をも恐れない度胸)」を持つことが必要だと説く。ここに、自分は肝魂を持っているからこそ活躍できるのだという新兵衛の自信と誇りがうかがえる。

2 ウ
 解説 篤義の気持ちをくんでコロバシの数を三本に決めたところや、コロバシのしかけのやり方を説明し、手伝おうとするところから、姉の朝子が優しく頼りがいのある人物だとわかる。

(1) ア・オ(順不同)
 (2) うれしそうに声をかけた
 (3) 朝子や和夫の、篤義に対する態度から考える。

4 イ
 解説 自分のコロバシの数が三本だと知ったあとの様子からむじやきさが感じられる。また、姉の手伝いを断ることから負けず嫌いな性格が読み取れる。

二章小説 4 表現に注意する 基本問題①

- 1 直喩法 猫の目 宝石
 隠喩法 白い羊
 擬人法 花

二章小説 4 表現に注意する 基本問題②

- 1 返事 無表情 ワープロの文字
 ウ
- 2 逃がした小鳥
 息づいている
- 3 おとぎ話に出てくる宝石
 水は大きな

4 いろいろな食べ物を投げ込まれて、「幸福な胃袋」のようであるのは、「土のバケツ」である。直喩法は、「よみ」のように「よみ」などを使つたとえる表現技法で、ここでは、バケツを胃袋にたとえている。

二章小説 4 表現に注意する 標準問題

- 1 雲 海風 かけひき
 (1) 雲 海風 かけひき
 (2) イ
- 2 「鋭角」とは、直角より小さい角度のこと。また、するどいことのとえ。「鈍角」はその反対の意味である。「凍りつく冬」の波頭の冷たい、厳しいイメージに合うものを選ぶ。

5 白ウサギの跳躍
 激しい風によって白い波が立つ様子をたとえている。

2 ウ
 (1) くしゃくしゃの紙くず
 (2) 二匹犬
 (3) 白熊
 (4) 白ウサギの跳躍
 激しい風によって白い波が立つ様子をたとえている。

二章小説 5 主題をつかむ 基本問題①

- 1 イ
 解説 「兄やん」が、テツオやシュンちゃんから小さなイタドリを受け取っていることなどから読み取る。また、

二章小説 4 表現に注意する 基本問題②

- 1 あの日だつ
 ア
 体言 体言止め
 解説 名詞や代名詞を「体言」という。
- 2 いろいろな食べ物を投げ込まれて、「幸福な胃袋」のようであるのは、「土のバケツ」である。直喩法は、「よみ」のように「よみ」などを使つたとえる表現技法で、ここでは、バケツを胃袋にたとえている。

3 ヒロ子さん
 「ヒロ子」でも正解。

4 ア エ
 解説 ①は「スコップの土をかむ音」、②はスコップに小石が当たる音。

二章小説 4 表現に注意する 基本問題②

- 1 雲 海風 かけひき
 (1) 雲 海風 かけひき
 (2) イ
- 2 「鋭角」とは、直角より小さい角度のこと。また、するどいことのとえ。「鈍角」はその反対の意味である。「凍りつく冬」の波頭の冷たい、厳しいイメージに合うものを選ぶ。

二章小説 4 表現に注意する 標準問題

- 1 雲 海風 かけひき
 (1) 雲 海風 かけひき
 (2) イ
- 2 「鋭角」とは、直角より小さい角度のこと。また、するどいことのとえ。「鈍角」はその反対の意味である。「凍りつく冬」の波頭の冷たい、厳しいイメージに合うものを選ぶ。

二章小説 5 主題をつかむ 基本問題①

- 1 イ
 解説 「兄やん」が、テツオやシュンちゃんから小さなイタドリを受け取っていることなどから読み取る。また、

1

初めてイタドリを採った妹への思いやりを読み取る。

1 ア

【解説】 育海は、前半で兄に対しての不満を述べているが、後半ではこっけいな兄の姿を温かく思い描いている間に「それにしても」とあることに注意して考える。

2 イ

【解説】 最後の一文に「朗らかな心持ちがわき上がってくるのを意識した」とあることに着目。

2

子供たち リーダー

p.75

1 二章小説

5 主題をつかむ

基本問題②

p.76

1

(1) お父さんは死んでしまった

【解説】 次の段落に「お父さんは死んでしまったと、つくづくよく分かりました」とある。

(2) ① ア ② ウ

【解説】 少年にとって防空壕は、お父さんと話ができる唯一の場所であった。少年が防空壕を大切に思うのは、お父さんとのつながりを失いたくないという、お父さんをしたう気持ち(①)からで、その防空壕を失った少年は、悲しみ、孤独感(②)に包まれる。

p.77

2

(1) イ

【解説】 中村新兵衛は、自分が貸した狸々緋を着た武者の活躍を見て、「自分の形」が持つ力に、誇りを感じている。「自分の形」とは、自分が貸した狸々緋

がもつ強い力に雅之君は引きつけられている。

(3) イ

【解説】 雅之君は、ホームレスのパンさんに、植物の部分だけではなく、「地下で頑張っている」根に目を向けること、そうすることで物を見る「目が新しくなる」ことを教えられる。この文章では、パンさんとの出会いによって、雅之君の植物を見る目が変わったことが書かれている。

1 二章小説

完成問題①

p.80

◆

(1) A ア B イ C ウ

【解説】 Aは、「運動ときたら学業以上の苦手」という「僕」が、駆け回るのにふさわしい言葉を選ぶ。Bは、「心配する」という気持ちを表す言葉を選ぶ。Cは、いろいろな思いがけないものばかりが飛び出す様子にふさわしい言葉を選ぶ。

(2) ① 鉄筋コンクリート三階建ての校舎

② ウ

【解説】 学業も運動も苦手で、特技もない。人から好かれる性質でなく、不良少年でさえない。先生からも冷たい目で見られている。このような「僕」が学校によいイメージをもっていないのは当然であろう。校舎が、暗く、陰気な建物に見えたのは、そのためである。

の服折や唐冠緞金のかぶとを指す。

(2) イ

【解説】 いつもは新兵衛をおそれる雑兵が、十二分の力を発揮したのは、新兵衛が「かぶとや狸々緋を貸した」ために、新兵衛だと気付かなかったからである。

(3) ウ

【解説】 新兵衛の「形」である狸々緋やかぶとを借りた武者が活躍し、一方、「自分の形」を貸した新兵衛が槍に突かれることから「形」の持つ力をとらえる。

1 二章小説

5 主題をつかむ

標準問題

p.78

1

(1) 信じられている

・恐ろしく大きいもの

(2) ア

【解説】 メロスは本来、約束の時刻に間に合い、セリヌンティウスの命を救うために走っている。しかし、線部では、「間に合う、間に合わぬは問題でない」「人の命も問題でない」という、結果を考えない境地に達している。

p.79

2

(1) 地下で頑張っている足腰

(2) 生々しい生き物としての存在感

【解説】 土の上に出ている花の可憐さより、その下の根

p.81

(3) 全くとりえない生徒

・全く人好きのしないやつ

(4) ア

【解説】 「…できえなかった」という表現に着目する。

(5) イ

【書いてみよう】

【例】 「僕」は、とりえない生徒で、学校生活も楽しくなさそう。しかし、そんな状況にあっても「まあいいや、どうだって」と考える「僕」に共感を覚えた。

1 二章小説

完成問題②

p.82

◆

(1) (例) 我慢できずにサクラを家の中に入れたこと。

【解説】 「音をあげる」とは、我慢しきれずに、悲鳴をあげたり降参したりすること。「犬は外で寝るもの」と主張した父だが、「その日の夜は、随分寒かった」ので、心配になって家にあげてしまったのである。

(2) ウ

(3) 外で寝るもんだ(！)

(4) ア

【解説】 「交互に撫でながら」から家族の気持ちがわかる。

(5) ウ

【解説】 サクラの様子を「くんくんと」「ぐるぐると」などの擬態語で、父の動きにつれて出る音を「ぎい」「ぎしぎし」「べたりべたり」などの擬音語で、生

き生きと表現している。

(6) イ

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る 基本問題①

【確認】★ 体験 ヒトデ
表現 おもちゃ

【筆者の思い】 妙な感動

(1) ・頭の上に大 ・自分の背丈(順不同)

【解説】 二文は、「…女性。」「…少年。」とそれぞれ体言(名詞)で終わっている。

(2) まぶしく

(1) かび 暗い思い出

(2) 勇気 捨てよう

(1) 血と汗と涙の特訓

(2) ウ

p.85

p.84

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る 基本問題②

(1) ・燃えるようなオレンジ色
・ピロイドのような光沢

【解説】 「…ような」という表現に着目しよう。比喩(直喩)表現である。

(2) 不思議なほ

(1) 強さ 落ち着いている

p.86

三章 随筆 完成問題①

◆ (1) 妹は、まだ字が書けなかった。

(2) 情けない黒鉛筆 小マル

(3) ウ

(4) ア

(5) ・はだして表へとび出した

(6) ・やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた

(7) ア・力(順不同)

p.90

p.91

三章 随筆 完成問題②

◆ (1) 思いのままに治療することが許されない過酷な現実

【解説】 1段落の初めの文に注目する。1・2段落と3・4段落で一つずつその例が挙げられている。

(2) 信頼

【解説】 直後の段落に「人への信頼を失わない彼ら」とあることに注目する。

(3) ① 尽くす・与え・助ける

② 求められる・喜び・生きがい

【解説】 筆者の考えが書かれた7段落に注目する。「与え」から「与えられ」に変わったのである。

p.93

p.92

p.87

③

(2) 目と心を吸い込むよう

【解説】 目が離せなくなり、強く心奪われていることを「目と心を吸い込むよう」とたとえて表現している。

(1) ① ア ② エ

(2) 精神的鎖国状態

【解説】 「精神的鎖国状態を許さなくなっている」とは、世界の情勢がどのようであるのかを考える。

(4) 世界地図 国際的視野

【解説】 最後の段落(文)に、筆者の考えがまとめられている。

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る 標準問題

① イ

【解説】 線部は、一文目の「一つのことをずっと続けていると、自然に見えてくるものが世の中にはある」ということを、たとえた表現。

(2) 習いごとの一つ

(3) 世間を知る あたりまえのこと しかられて教わる

(1) ウ

(例) 毎日毎日の体験に感激を持たなくなる。自分たちがういけるんだ

(終わりの五字は、「つていける」でも正解。)

(4) 無力感 真剣 だいじ

p.88

p.89

②

書づいなら

(例) ボランティアとは、無償で社会に尽くしたり人を助けたりすることである。しかし、それによって自分も喜びを感じ成長できるものであると思う。

四章 詩 1 詩の種類・表現技法 基本問題①

【確認】★ 詩の種類 (1) 口語 (2) 自由 (3) 口語自由詩

◆ (1) ① 文語詩

② 定型詩

③ 七五調 五七調

④ 文語定型詩

(2) うれひは青し空よりも。

p.95

p.94

四章 詩 1 詩の種類・表現技法 基本問題②

① 四

【解説】 一行空きで、四つの部分から成っている。

(2) ア・エ(順不同)

(3) ア

【解説】 五音七音から成る言葉が多く、調子がいいが、各行のリズムが決まっているわけではないので、形式的には自由詩である。

p.96

2

(4) 体言

(5) 青空ね、／風のふんぶの音アしてる。

解説 「青空」が視覚によって、「風のふんぶの音」が聴覚によって感じ取った内容である。

(1) 口語自由詩

(2) ① ウ

(3) ② イ

(4) ア

解説 「でしようね」「でしようか」という表現に着目。

四章詩 2 詩の鑑賞

基本問題①

確認

(1) ア

(2) 停めること 好く生き

◆

(1) 花ぬかばさ

(2) (視覚)：野山の緑

(聴覚)：波の音 風の声(順不同)

ウグイス

(きゆう覚)：花の匂い

(触覚)：風

(3) ア

解説 「いいあんべえ(いい気持ち)」がくり返されて、春の喜びを歌っている。

四章詩

2 詩の鑑賞

基本問題②

1

(1) 5

解説 句点がつけられるのは、一箇所だけ。

(2) (例) 気よわき ころ細き(順不同)

解説 「気よわきこと」「ころ細いこと」などでも

正解。また、「よわい」「や」「ころ」は、漢字で「弱

い」「心」と書いてもよい。

(3) ウ

解説 ①は、「ひとつだけあとへ／とりのこされ」や、

「気がよわくて」「ころ細かったから」などか

ら、りんごの「孤独な状況」や「自信のなさ」を

読み取る。

2

(1) 名も知らぬ遠き島

(2) イ

解説 椰子の実は「故郷の岸を離れて」ただよってき

たが、「われもまた」そっだというのである。

(3) 故郷 椰子の実

(4) 異郷の涙

(5) イ

四章詩 3 短歌

基本問題①

確認

(1) 君の姿を

(2) 霧とぎし

四章詩

3 短歌

基本問題②

1

(1) A イ B ウ

3

(1) A 二 B 三
(2) A

解説 「夕」と体言(名詞)で終わっている。

2

(1) 初

解説 <通釈>の句点の位置に着目する。「ふるさとの

海が恋しい。」に句点があるが、これは短歌では初

句の「海恋し」にあたる。

(2) B

解説 初句が、「いくやまかは」と六音となっている。

(1) 初

解説 四句目が八音で、定型より一音多い。

(2) 四

解説 短歌をすべてひらがな(音)に直して五つの

句に分けると次のようになる。

「つばくらめ／そらとびわれは／みずおよく

／ひとつゆうやけの／いろにそまりて」

1

(四句) 或る楽章を
(結句) われは思ひき
(1) (初句) 五 (二句) 七
(三句) 五 (四句) 八
(結句) 七

解説 短歌をすべてひらがな(音)に直して五つの

句に分けると次のようになる。

「つばくらめ／そらとびわれは／みずおよく

／ひとつゆうやけの／いろにそまりて」

2

(1) いちはつの花

解説 いちはつの花が咲くのは五月ごろで、春の終わ

りを表す。

(2) 今年ばかりの春

(3) ウ

(1) 空 海 青 白鳥 白(「空」と「海」は順不同)

解説 全体が青色の中で、ぽつんと一つ白色の白鳥が

漂う情景を思いうかべよう。

四章詩

完成問題①

◆

(1) ア

解説 現代の言葉(口語)が使われ、一行の音数に決

(2) 三

まりがなく自由なリズムで書かれている。

解説 第一連に書かれた「木は黙っている」「木は歩い

たり走ったりしない」「木は愛とか正義とかわかめ

ない」というのはほんとうか、という問いかけに、

(3) 黙っている

【解説】第一連の一行目に、「木は黙っている」とあるのに注目する。

(4) ウ・オ

【解説】「木は稲妻のごとく地の下へ走っているのだ」が、普通の語順。「稲妻のごとく」が直喩表現。

(5) 小鳥が飛んできて枝にとまる

【解説】すぐ後の部分に着目する。

(6) ウ

【解説】第四連と、第五連の最初の一行に注目して答えよう。第四連では、「若木」「老樹」という二つの言葉であらゆる年齢の木を表現している。さらにその直後の第五連で、「ひとつとして同じ木がない」と言っている。あらゆる木が「歩いたり」「走ったり」「それぞれ違う固有の営みを行っているのである」。

(7) イ

【解説】木は、常に黙って動かず、愛や正義をわめいたりせず立っているという一般的な考えを作者は否定している。さらに「自然の本質的な優しさ」というよりも、「木」がひそやかに持っている見えない営みに注目しているのである。

四章 詩

完成問題②

p.108 ◆ (1) G

五章 古典

基本問題①

p.110

確認

- ★ ① ① いう ② かい ③ あお ④ いなか

1

- ① かわ ② いえ ③ しお ④ やまこ おもろ ⑥ とおる ⑦ わぢわい ⑧ いる ⑨ こえ ⑩ おる

2

【解説】現代仮名遣いは、読むように書き表すのが基本。「はじ ② あずき」

3

【解説】「かんいち ② ほんがん」「ぐわ」↓「が」となる。

4

【解説】あっぱれ ① 促音の「つ」は、小さい「つ」に直す。

5

【解説】もうす ② きもろうと ③ きんろう ① ①…「まうす」(mausu) ↓「ま」(mosu)。「(n)su」。

6

- ① 歌詠みけん ② 月照るらん

五章 古典

1 歴史的仮名遣い

基本問題②

p.112

◆

- ① つい ② ひとえ ② わずか ② おもわん ③ ① あやしゅう ② ものぐるおしけれ

【解説】「五・七・五・七・七」より音数の多い歌を探す。「しゃ・しゅ・しょ」などの拗音は一字に数えるので、Hの「観覧車」は五音になる。

- (2) C 四 D 四 E 三

【解説】歌の中で、意味や調子の切れ目になっている箇所を探す。

- (3) C・H・I (順不同)

【解説】体言(名詞)で終わっている歌を選ぶ。

(4) ウ

【解説】「君に待たるるこちして(君がわたしを待っているような気がして)」に着目する。

- (5) しんしんと(「しんしん」も正解。)

【解説】「しんしんと」は、夜ふけの静けさを表すとともに天から聞こえてくるようなかえるの鳴き声を表している。

- (6) ① I ② F ③ D ④ C ⑤ E ⑥ H ⑦ A ⑧ G ⑨ B

【解説】②の「色の対照」は、Fの「草わかば」の緑と「色鉛筆の赤き粉」を表している。⑥の「対句」は、Hの「君には一日我には一生」の部分である。

【例】I 「寒いね」という言葉を交わし合うことによって、心に「あたたかさ」が生まれる。人とのつながりの大切さ、ありがたさを感じさせる歌だと思った。

- ④ ① ように ② おかしけれ

【解説】①…「やうた(yaumi)」↓「やうた(yon)」。

⑤ ① とつて ② つがら ③ よっぴらべ ④ ひょうべ

【解説】④…「ひやうべ(hiyabudo)」↓「ひやうべ(hyodo)」。

- ⑥ ① よろず ② なん

【解説】①…「つ」↓「ず」となる。

⑦ ① にながつ ② おりふし ③ ゆりすえ ④ ただよえは ⑤ おうぎ

【解説】①…「にながつ」と答えないうまに注意する。

五章 古典

2 重要古語と内容の理解 基本問題①

p.114

確認

★ 古語の意味 とても すばらしい 助詞の意味 月が

古文特有の表現 をかしけれ

- ① りっぱに ② おおせい

- ③ ① おもむき深いものだ

【解説】『あはれなり』は、しみじみとした感動を表すときに使われることが多いから考える。

- (2) 係り結び

解説 「ぞ・なむ(なん)・や・か・こそ」の助詞があると、文末は終止形ではなく、別の活用形(連体形あるいは已然形)となる。このきまりを「係り結び」という。

五章 古典 2 重要古語と内容の理解 基本問題②

p.116 1 がを

(2) がの

(3) いいかげんな気持ち

2 a ア b ア c イ d ア e ウ

解説 聖海上人が、出雲神社の獅子と狛犬の立ち方がふつうと違っていたことに感激して、人々にそれを語り、神官にわけをたずねる。

(2) 獅子 狛犬 背中を向け合って 感激

(「獅子」と「狛犬」は順不同。「感激」は、「感動」などでも正解。)

解説 文章の初めに書かれた獅子や狛犬の様子、それを見た聖海上人の様子に着目する。

(3) ウ

解説 聖海上人が感激したのは、獅子と狛犬の立ち方であるが、そのことについて説明した神官の言葉に着目しよう。神官は、「さがなきわらはべどもものつかまつりける(いたずらな子どもたちがいたしました)」と説明している。

五章 古典 2 重要古語と内容の理解 標準問題

p.118 1 d

解説 現代語訳を参照しながら「の」の意味を考えよう。dは主語を表す「の」で、「大きなみかんの木が、……つけており」という意味である。a・cは、いずれも、「縁の葉」のように、下の体言を修飾する語を作る「の」で、現代語訳中の空欄には、そのまま「の」が入る。

(2) ① イ ② ア

解説 ①「つゆ……なし(打ち消しの言葉)」で、「少しも(全く・全然)……ない」という意味。

②「あはれに(基本形は「あはれなり」)」は、しみじみとした感動などを表す。

(3) イ

解説 「少しこときめて」は、「少し興ざめて」という意味。山里のもの寂しい様子で住んでいる家に情趣(しみじみとした味わい)を感じていたが、その家にあつたみかんの木にさくがあるのを見て、興ざめたのである。「興ざめ」は、風情などがあつておもしろがつっていたものが、つまらなくなること。

p.119

2

(1) ア

解説 主語を示す「が」を補う。

(2) ぞける

解説 「とぞ言ひける」の「とぞ」。係り結びになるのは、「ぞ・なむ(なん)・や・か・こそ」である。

(3) ア

解説 仁和寺の法師が「神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず(神にお参りするのが本来の目的であると思つて、山までは見ませんでした)」と語っていることに着目する。語注にあるように、石清水は山上にあるのに、付属の寺社である極楽寺・高良を石清水だと思つて拝んで、帰つてきたのである。

(4) 少しのこと

解説 作者の感想や後日談は、文章の最後に述べられていることが多い。

五章 古典 3 漢文 基本問題①

p.120 確認 ★ 書き下し文の書き方

(1) 高山 登

1 A 読む

(2) B 漢文 学ぶ

(3) C 命ずる 従ふ

2 徳孤ならず

解説 「不」は、日本語では助動詞にあたる。助動詞、助詞にあたる言葉は、ひらがなに直すのが原則。

(2) 君子は諸を己に求む。

p.123

1

(1) ア

解説 一行が五言(五文字)で、全体が四句(四行)から成る。

(2) 鳥・少(順不同)

解説 五言詩は偶数句末に韻をふむのが原則だが、この漢詩では一句と偶数句末が韻をふんでいる。

(3) イ

解説 漢字を音読みしてみよう。「楼(ロウ)」「州(シュ

五章 古典 4 漢詩 基本問題①

p.122 確認 ★ 漢詩の形式 四 五 五言絶句 漢詩特有の表現 然 年

3

(1) 学 而 不 思 則 罔

解説 「不」思は、「思」↓「不」の順に読む。一字下の字から上の字に返つて読むときに付けるのは、「レ点」。

(2) 思

(3) ウ

五章 古典

完成問題①

p.124

1

- (3) イ ウ
 「流(リュウ)」と、「E」で韻をふんでいる。

- (1) a おのこ b こずえ
 (2) ウ
 (3) ウ

解説

高名こうなまの木登りが説明している言葉に着目しよう。
 「過ちは、やすきところになりて、必ずつかまつることに候ふ(失敗は、簡単な所で、必ずいたすものでございます。)」と説明している。

p.125

2

- (1) a ようよう b なお
 (2) ア
 (3) ウ
 (4) エ

解説

「a」やうやう(yauyan)、「E」やんやん(yōyō)。

解説

アは「の」のままの意味。イ、エは「が」の意味。

解説

「雪の降りたるは言ふべきにもあらず。(雪が降り積もっているのはいうまでもない。)」とあることに着目する。雪が積もったときはもちろん美しいと言っている。

書いてみよう

p.126

五章 古典

完成問題②

- (例) 私は、秋が好きです。特に、晩秋のころ、山全体が紅葉で色づいた美しい景色を見るのが好きです。

- (1) a まいらせん b なんじ
 (2) ア

解説

直前の「我が子の……美麗びんぎなりければ」に着目。

- (3) イ

解説

「名のらずとも、首を取つて人に問へ。見知らうずるぞ。」に着目。人に聞けばわかるといふのだから身分が高い人物である。

p.127

2

- (1) ウ
 (2) 深・心・金・簪(順不同)
 (3) ア

解説

「深(シン)」「心(シン)」「金(キン)」「簪(シン)」と、「U」で韻をふんでいる。

解説

都是破壊はかいされたが、山や河はあり、草木が茂しげっているとうたっていることから考える。

- (4) イ

解説

「レ点」は、下から上へ一字返って読む符号。

解説

戦争は長く続き、家族と離れ離れはなになったままで老いていく自分の身を嘆なげいている。